

2012.03.06「自らの身を切るというパフォーマンスにだまされるな！！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は3月6日火曜日です。予算審議が衆議院で大詰めを迎え、今週中に採決されることになろうかと思います。来週からは参議院の予算審議に入るのですが、私は先週の金曜日に提出されました国家公務員の給与を下げる法案に反対をしたのです。ですが、予想されたように今度は民主党、公明党が国会議員の給料を下げていくことに同意し、さらには自民党も協力をするという話が出ています。さらには来年度の国家公務員の採用枠を2割カットするということも出ております。野田総理は税金を上げるからその痛みを国家公務員、それから国会議員にも受けてもらおう、といった理屈で、さも今の厳しい財政と東日本大震災の復興財源を考えれば、みんなが節約してやっていくのが正しいといった顔をして自らの身を切るのだ、と言っているのです。

けれども、これは本当にとんでもない詐欺をしているという風に思っております。これに乗らされているマスコミも本当に馬鹿なのですが、皆様方よく考えてください。我々国会議員、公務員の給料、数を減らしていくことが、一体どうしたら身を切るという意味になるのでしょうか。まさに今一番大事なのは、東日本大震災の現場でまったく進んでいない復興事業を進めることなのです。その為にはマンパワーが必要です。被災地だけでは足りないので、他の地域からもどんどん応援にきています。要するにこういった大災害等が起きた時には

自衛隊もそうですし、それぞれの市役所、県庁、国を含めマンパワーというのが圧倒的に必要なのです。しかし、なおそれが足りないというのが現実ではありませんか。

今は新卒の大学生諸君の就職が6割を切ってしまっていると言うぐらい雇用情勢は悪いのです。こういうときには新規採用の枠を増やしてでも、公務員の数を増やして今必要とされているところに人材を派遣するというのが当たり前の話です。そういう声をしっかりと聞き届けるためには国会議員、地方議員もある程度数がいないと、国民の声が吸い取られないのです。そして、財政が厳しいから、ということでそういった予算、給料を全てカットすると、表面上皆さん方に税金を上げてもらう為に我々の身を切りました、数を減らしました、給料も減らしましたといっても、要は何にもしていないということを正当化しているだけではありませんか。これは本当にもう、振り込め詐欺でもここまで出鱈目はやらないようなことを言っているのです。

総理大臣の仕事はなんですか、まず被災地の人を助ける、困っている人を助ける、それから就職先のない方を助ける、そしてデフレで経済がおかしくなり、困っている人を助けることですよ。そのためには何をすればいいかと言うと、野田さんがやっていることと全く逆のことをやればいいのです。被災地で困っておられる方々がいたら予算をつけていく、そしてさらにマンパワーが足りないならどんどん人材を登用していく。公務員の給与が民間と比べて高いとか安

いとか議論は当然ありましようけれども、とりわけ中小企業で組合もない、組織もない、そういう方々からみて、自分達と比べて雇用が安定しているじゃないかという点で公務員がたたかれる一番の原因になっています。しかしだからといって公務員の給与を下げていっても、彼らの境遇の解決にはならないのです。そうではなく、民間の方々の所得がしっかりと増えるようにするためにも、政府が仕事を発注していかなければならないのです。そして仕事を発注することによって経済の全体のパイを拡大していく、そのことによってデフレからインフレ局面になっていく、当然のことながら労働者の給与も拡大していく。そうすることによって商売をされている方々の売り上げもどんどん増えていく、つまり今野田さんたちがやっていることはまったくその逆さまをやっているわけです。

しかし、それがさも正しいかのように、身を切る努力をしているのだ、税金を上げる為に先ず我々国会議員の給与を減らしていくのだというのは、まったく、出鱈目、エセの改革もいいところなのです。なんでこんな、考えてみればすぐわかることがわからないのか、考えるにミクロとマクロの話がごっちゃになっているからなのです。よく詐欺師がやる手です。ようするに、一つ一つ考えてみれば、厳しい時代に企業では人員をカットしたり、それから経費を削減したり、本当に乾いた雑巾をまだしぼるようなことをやっています。当然政府もそういうことをやっていかなければなりません。しかし、もう片方で、マク

ロと言うおおきな視点で見ると、世の中全体がお金をどんどん使わなくなっていくとどうなるか、世の中全体が不景気になってしまうのです。経済というのが何か分かっておられない野田さんのような方がやるとこういうことになるのです。

けれども、経済は何で大きくなるかと言えば、ようするに皆様方が銀行にお金を預けますね、預けたお金を誰かがそれを借入して使う、それを新たな工場が使うとか、家を建てるとか、そういうことによって、金融機関を通じて、次から次へと融資が繰り返し行われる結果、皆様方の預金は何倍にもなって、実は世間に出ていくのです。これが信用創造という、金融機関の一番大きな仕事なのです。ところがその信用創造機能というのが損なわれてきているのです。バブル経済が崩壊した、というよりも崩壊させたわけなのですが、もう借金をどんどん抱えて、次から次へと投資をしていく。そしてまたバブルの時のように土地や不動産、テナント代等の不要不急のものにどんどんどんどん投機的な価値を求めて投資していく。これは私も関心しませんけれども、だからと言って、みんなが工場立てることもやめておこう、これからどうなるかわからないから、家も立てないでおこうかな、ということをやっていけば確実にお金は回りません。回らない分どうなっているかというと、預金として銀行に滞留しているのです。現にここ数年間、私が調べた数字ですと、600兆円銀行にお金が預けられているけれども、貸し出しが450兆円なのです。150兆円は貸し出し

ができずに、非常に大きなお金が滞留しているわけです。こういう状況ですから、バブルの時はどんどん貸していたものが、それがみんな借金の返済になって銀行に残ってしまっている。これが実は景気を悪くしている一番の元なのです。そしてそのようなときには、実は政府が中心になって、民間がお金を使わないならば政府、公共機関がお金を出していくというのが当たり前なのです。

けれども、これを野田さんや菅さん、民主党の方々は経済のマクロの意味でわかっていませんから、どんどん政府支出を小さくしているわけです。そしてとうとう野田さん時代になったら、今度は復興するにも、復興はしなくてはならないことだけれども、そのために一応復興債は出しますが、それより先に税金で返してもらいますよ、と自動的に組み込んだ形にしてしまいました。そしてさらに次も、それでも足りない、税収が足りないのですから消費税をあげますよ、ということでその為には自ら身を切るのだ、といって今度は公務員の給与も下げる、国会議員の給与も下げる、そして公務員を登用する枠も小さくする。こういうことをやりだすと一体どういうことになるでしょう。確かに、政府の予算は小さくはなりますが、政府の予算が小さくなって景気が良くなるのですか。なりませんでしょう。先程から言っているように、今やらなくてはならないのは政府が必要なところにどんどんお金を回していくことなのです。当然そのための財源としては建設国債、赤字国債も方便のためには成るかも知れませんが、とにかく国債が増えて参ります、そしてそれが民間の金融機関がお

金を貸し出ししないで、預金として残っているものをそのまま放置しておけば
どんどんデフレが進行してしまいますから、それを国の方が使いだすということ
です。それを使うことによって何が起こるかと言うと、雇用が生まれるので
す。給与として新たに戻ってくる、売り買いをしては消費税として国に入って
くる。そして売り買いを何度も何度も繰り返すようになりますと、国家全体の
取引の量が大きくなりますから **GDP** も大きくなる。そのことによってデフレ
からインフレに変えていかなければならないのです。まっとうな経済の当たり
前の考え方なのです。

ところが今や、野田総理が言っていることは、小学生が考える程度の経済常
識でミクロのことでは正しいように見えるけれども、マクロ経済そのものがわ
かっていない。自分のパフォーマンスだけなのです。私は本当に情けないのは、
能力のない方がこういうパフォーマンス頼みということが良くあることなの
です。しかしこれは一番の間違いでありますからこれは絶対止めなくてはなり
ません。それを自民党まで一緒に乗ってきていることが一番の問題なのです。
私が先週、処分を覚悟で反対票を投じてきたのはまさにこういうことになっ
ちゃいますよと、伝えたかったからなのです。

だからまず、公務員の給与を下げる、デフレを加速させる政策には歯止めを
かけないと、これは行くところまで行ってしまいます。それは何かと言うと経
済の大破綻なのです。どんどん皆が物を使わなくなる、預貯金の量は大きいと

はいえ、結局所得はどんどん減っていきますから、預貯金も食いつぶしで使っていく。食いつぶしで使っていきますとどうなりますか。誰も何も得をしないのです。預貯金を食いつぶして使うのではなくて、誰かが借りてくれて事業に使ってくれる、だから新しい所得が増えて、預貯金は減るのではなくて増えていくのです。この当たり前の仕組みに戻らないと、日本は本当にとんでもないことになる。野田総理も身を切るといっていますけれども、切るのはまさに自分で自分の首を切って、辞任する以外ないのだということを是非、国民の皆様方にもご理解いただきたいと思います。この間違った総理を止めなければ、日本は崩れてしまいます。本当に強くそのことを感じたわけです。

本日も御覧頂きありがとうございました。